ISSN 1881 － 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発　行：隅田　学
事務局：中西印刷株式会社　学会部内
URL：*http://www.jsse.jp*

2024.2.15
NO.266

科学教育研究レター



目　次

■ **選挙管理委員会だより** ……2
一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

■ **学会賞** ……3
2024（令和 6）年度学会賞候補者の募集

■ **年会** ……4
第 48 回年会開催案内（第 3 次）

■ **支部･研究会だより** ……8
2023 年度研究会開催のお知らせ

■ **国際交流委員会だより** ……12
国際学会参加報告(71)The 13th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education（CERME13）
国際学会開催情報

■ **若手活性化委員会だより** ……16
2023 年度 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）報告
若手研究者，「初心」を語る

■ **編集委員会だより** ……23
特集のお知らせ（再掲）
「科学教育研究」編集状況報告

■ **広報委員会からのお知らせ** ……29

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会
代議員選挙管理委員会

一般社団法人日本科学教育学会（以下本学会）では，定款に基づき，2024 年度以降（2024 年 7 月 1 日～）の代議員候補，及び，役員候補を選出するための選挙を実施します．2 つの選挙のための会告は会員の皆様に郵送にてお送りしております．本学会の役員・代議員にふさわしい方のご推薦をお願いいたします．学会 HP から様式をダウンロードしてご使用ください．また，下記事項についてもご確認ください．

（1）候補者の承諾について

候補者の推薦にあたっては，必ず候補者の承諾を得てから役員推薦書及び代議員立候補・推薦用紙の提出を行ってください．

（2）役員候補者推薦書への押印について

役員候補者推薦書には，推薦責任者の押印が必要です．

代議員候補者推薦・立候補用紙には，押印は必要ありません．

（3）役員推薦書及び代議員立候補・推薦用紙のメール添付について

役員推薦書及び代議員立候補・推薦用紙は郵送のほかにメール添付でも受け付けております．必ず事務局から受理メールをお送りしますので，万一受理メールが届かなければ以下の問い合わせ先までご連絡ください．

メールに添付する際には PDF 形式でお送りください．ファイル名は次のようにお願いします．

役員候補者（理事候補）　推薦書
yakuin_suisen_kagakutaro（候補者名ローマ字氏名）

代議員　立候補・推薦用紙
daigiin_rikkoho_suisen_kagakudaro（候補者名ローマ字氏名）

問い合わせ先・送付先
一般社団法人日本科学教育学会事務局
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町 146 番地
中西印刷株式会社　役員・代議員選挙管理委員会　宛
E-mail：jsse[at mark]nacos.com　　※[at mark]を＠に変換して送信してください。

学会賞

公示

2024（令和 6）年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会　大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します.会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます.

1. 推薦期限
   2024 年（令和 6 年）5 月 13 日（月）（必着）
2. 推薦資格
   (1) 推薦者は会員とする.
   (2) 会員は，各賞について，それぞれ 1 件のみ推薦できる.
   (3) 各賞の推薦は他薦のみとする.
   (4) 推薦者は，推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロード可）で，入手の上，その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する.
3. 受賞資格
   一般社団法人日本科学教育学会　学会賞表彰規程（ https://jsse.jp/regulation/26-2 ）を参照する.
   *奨励賞の受賞資格が改訂されておりますのでご注意ください.
4. 受賞件数
   各賞の受賞件数は特に定めない.
5. 選考
   会員からの推薦に基づいて，学会賞選考委員会が候補者を選定し，理事会が決定する.
6. 賞
   (1) 本賞は賞状とする.
   (2) 賞の贈呈は，2024 年度代議員総会において行う.
7. 備考
   論文賞の対象は，『科学教育研究』Vol.45，No.2 以降に掲載の論文とする.
   奨励賞の対象は，『科学教育研究』Vol.46，No.2 以降，『研究報告』Vol.36，No.6 以降及び第 46 回・第 47 回年会論文集に掲載の論文等とする.

第 48 回年会 開催案内（第 3 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1．日程：2024 年 9 月 13 日（金）～15 日（日）（3 日間を予定）

2．会場：函館工業高等専門学校
（〒042-0953 北海道函館市戸倉町 14-1）
https://www.hakodate-ct.ac.jp/guidance/access/

3．連絡先：連絡先：日本科学教育学会第 48 回年会実行委員会
E-mail ：jssehakodate48 [at mark] gmail.com

4．スケジュール概要（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります.
13 日（金） 午後：研究発表　理事会（改選前）　顧問・理事・支部長・代議員合同会議
14 日（土） 午前：研究発表　招待講演
午後：代議員総会・表彰　シンポジウム
15 日（日） 午前：研究発表
午後：理事会（改選後）　研究発表（申し込み状況により設定）
＊その他，各委員会による企画，各委員会の会合等があります.

5．内容：次の内容を予定しています.
(1) 招待講演（科学教育研究セミナー）
(2) シンポジウム
(3) 課題研究発表
(4) 一般研究発表
(5) インタラクティブセッション
(6) その他の企画
※年会のタイムテーブルは，2024 年 3 月下旬に年会 Web サイトにて公開予定.

6．発表申込等について
(1) 課題研究発表の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします．企画をお持ちの方は応募ください.
＜スケジュール（予定）＞
・企画応募開始：2024年5月1日（水）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
・企画応募締切：2024年5月17日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
・受理審議：2024年5月20日（月）～5月24日（金）【年会企画委員会】

・審議結果報告：2024年5月27日（月）【年会企画委員会 → オーガナイザー】
・原稿提出期間：2024年5月29日（水）～6月21日（金）【オーガナイザー → アップロード】
※ 6月21日（金）は，登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく，オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（「JSSE年会申込Webサイト」からアップロード）する期限です．従前どおり，オーガナイザーが全員分を取りまとめてアップロードいただくか，登壇者自身でアップロードいただくか，どちらかの方法でご提出ください．

＜企画応募方法＞
・年会Webサイト掲載の方法で，申し込んでください．

＜原稿提出方法＞
・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿（発表1件あたり4ページまたは2ページ）のPDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください．

＜応募に当たっての留意事項＞
・オーガナイザー資格：会員でなければなりません．
・登壇者：登壇者を企画応募締切までに確定してください．課題研究発表での登壇は1回とし，登壇者の重複はできません．登壇を依頼される場合には，当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください．なお，登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には，申請用紙に記入してください．指定討論者については，重複を認めます．
・登壇者資格：登壇者は会員，非会員を問いません．ただし，非会員による発表件数は，原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします．やむを得ずに半数を超える場合は，企画応募締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください．非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません．非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは，年会企画委員会で審議します．なお，受理された企画であっても，受理後に登壇者の変更がなされ，非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合，受理が取り消される場合もありますので，ご留意願います．

（2）一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

＜スケジュール（予定）＞
・申込及び原稿提出期間：2024年5月29日（水）～6月21日（金）
※申込と原稿提出を同時に行ってください．
※期日等に変更が生じた場合は，学会Webや科学教育研究レターなどで通知します．

＜申込及び原稿提出方法＞
・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿のPDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください．
・書式や留意事項等の詳細は，「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください．

＜資格・登壇可能件数＞
・登壇者資格：会員でなければなりません．
※本欄における「会員」とは，学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します．ただし，発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため，入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については，発表申込及び原稿

提出期間の年度ではなく，年会が開催される新年度からの入会でも可とします.

・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は，各1件です．なお，一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は，課題研究，その他の企画にも登壇することができます.

＜発表時間＞

・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分，質疑・討論5分）を予定しています.

・インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です.

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては，次の要件を満たすように心がけてください.

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である.

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である.

◆研究の背景

関連研究，依拠する理論，関連する実践等によって，研究の背景が明示されている.

◆研究の方法

研究の方法論，手順，計画などが適切で，それらが明示されている.

◆結果と知見

得られた結果，知見，アイデア等が明示されている.

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている.

7．各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

・13 日（金）の午後にかけて，ワークショップを計画中です.

(2) 国際交流委員会

8．年会の開催形態等について

・第48回年会は，現地での対面開催を基本とします．ただし，課題研究発表はハイフレックス開催も可としますが，その準備や運営については登壇者にしていただきます．一般研究発表は対面での発表部屋とは別に，オンライン専用の発表部屋を設定する予定です（オンラインでの参加者は，対面での発表部屋には参加できないなどの制限があります）．インタラクティブセッションは，対面のみで実施します.

・オンラインでの参加・発表については，各自でオンライン会議システムZoom等が利用できる機器（パソコン・タブレット，イヤホン，マイク，モバイルWi-Fiルータ等）の準備をお願いします.

・要旨集（プログラム）・論文集は，電子的方法にて配布いたします.

・会期中に台風・地震などの災害が起こった際や，感染症拡大による緊急事態宣言が現地で発令された際の中止や開催方法の変更等の対応につきましては，開催校である函館工業高等専門学校の規定等を準用して判断し，年会Webサイト等を通じてご案内します.

9. 第 48 回年会実行委員会

委 員 長　下郡啓夫（函館工業高等専門学校）

10. 年会企画委員会

委 員 長　山本智一（兵庫教育大学）

副委員長　川上　貴（宇都宮大学），服部裕一郎（岡山大学）

幹　　事　神山真一（大阪体育大学）

担当理事　瀬戸崎典夫（長崎大学），大谷忠（東京学芸大学）

委　　員　石橋一昴（岡山大学），江草遼平（千葉商科大学），
小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），
木村優里（明治学院大学），小泉健輔（群馬大学），
中原久志（大分大学），畠山　久（東京工業大学），
福田博人（岡山理科大学），増田有紀（東京成徳大学），
向　平和（愛媛大学），山中真悟（福山市立大学），山本輝太郎（金沢星稜大学）

2023 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン開催
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	九州大学
北陸甲信越支部	2024 年 3 月 9 日（土）	終了しました	山梨大学
北関東支部	2024 年 3 月 16 日（土）	終了しました	オンライン開催
四国支部	2024 年 6 月 1 日（土）	2024 年 4 月 22 日（月）	高知大学 （朝倉キャンパス）
中国支部	2024 年 6 月 22 日（土）	2024 年 5 月 13 日（月）	島根大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので，ご確認ください．
※右の QR コードより，学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます．
https://jsse.jp/1-3

2023 年度　第３回日本科学教育学会研究会（北陸甲信越支部開催）

［テーマ］科学教育研究の理論と実践
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［日　時］2024 年３月９日（土）　10：00～16：00（予定）
［会　場］山梨大学教育学部 Y 号館 Y-11・Y-12・Y-13 教室（対面開催）
〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37
※今後の新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン開催になる可能性があります．
［対　象］会員，教員，学生，社会人
［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます．
参加費は無料です．
［申込先］下記のフォームから参加の申し込みをお願いします．
発表・参加申込：https://forms.gle/cNve8hNFeaP5ERF89
発表されない場合は，当日参加も可能です．
［問い合わせ先］2023 年度第 3 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員
佐々木智謙・杉山雅俊
E-mail：sasakit(atmark)yamanashi.ac.jp
※アドレスの(atmark)の部分は＠です．

多数の方々の申込をお待ちしております．

日本科学教育学会　北陸甲信越支部長　谷塚光典（信州大学）

2023 年度　第４回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

［テーマ］今求められる科学教育研究

［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会

［日　時］2024 年３月 16 日（土）　９：30～16：30（予定）

［会　場］オンライン開催

［対　象］会員，教員，学生，社会人

［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。 参加費は無料です。

オンライン開催に参加をご希望の方は，2024 年３月 13 日（水）までに「問い合わせ先」まで E-mail でご連絡ください。３月 14 日（木）以降にオンライン開催（試行）の ZOOM URL を直接ご連絡いたします。

なお，研究会当日の録音，録画はご遠慮ください。

［問い合わせ先］2023 年度第４回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：高藤 清美

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻３－１ 筑波学院大学 経営情報学部

Tel (029-858-4811（代表）)

E-mail：takato(atmark)tsukuba-g.ac.jp（高藤 清美）

※アドレスの(atmark)の部分は＠です.

多数の方々の申込をお待ちしております.

日本科学教育学会　北関東支部支部長　高藤清美（筑波学院大学）

2023 年度　第５回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

［テーマ］学習指導要領改訂に向けて～「個別最適な学びと協働的な学び」の再考を軸として～

［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会

［日　時］2024 年 6 月 1 日（土）10：00～17：00（予定）

［会　場］高知大学　朝倉キャンパス　教育学部 51 番教室（対面開催）

〒780-8520　高知県高知市曙町 2-5-1

［対　象］会員，教員，学生，社会人

［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます.

参加費は無料です.

発表されない場合は，当日参加も可能です.

［問い合わせ先］2023 年度第 5 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：中城　満

〒780-8520　高知県高知市曙町 2-5-1　高知大学　教育学部　理科教育講座

Tel/Fax (088-844-8413)

E-mail：mit-na(atmark)kochi-u.ac.jp（中城　満）

※アドレスの(atmark)の部分は＠です.

［発表申込・原稿提出］発表は，単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。

発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします。

希望される方は，氏名，所属，発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所を明記した E-mail を 企画編集委員：中城　満（高知大学）までお送りください。

発表申込締切は，　2024 年 4 月 22 日（月）です。
研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください.
〈 URL： https://jsse.jp/1-3/115-2 〉
研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください.
〈 URL： https://jsse.jp/1-3/125-2 〉
原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，2024 年 5 月 10 日（金）です。
次のウェブサイトから投稿してください。
〈https://jsse-kenkyukai-form.jp/ 〉
研究会情報のプルダウンメニューで「四国支部」を選んでください。
投稿完了メールは＜info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp＞より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は＠です。
原稿提出が指定の期日に遅れますと，投稿できなくなり，自動的に取り消しとなります。
また，原稿投稿料が指定の期日に遅れますと，発表できませんので，ご注意ください。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会　四国支部長　早藤幸隆（鳴門教育大学）

2023 年度　第６回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

［テーマ］教育実践から考える未来の科学教育
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［日　時］2024 年 6 月 22 日（土）9：00～16：00（予定）
［会　場］島根大学教育学部　教育学部棟　　35 番教室・ICT ルーム（対面開催）
〒690-8504　島根県松江市西川津町 1060
［対　象］会員，教員，学生，社会人
［参　加］発表の有無にかかわらず参加できます．会員でない方もご参加いただけます.
参加費は無料です.
参加を予定される方は，2024 年 6 月 15 日（月）までに下記問い合わせにご連絡ください.
［問い合わせ先］2023 年度第 6 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：下村　岳人
〒690-8504　島根県松江市西川津町 1060
Tel 0852-32-6064（内線 3782）
E-mail：shimadaishimoken(atmark)gmail.com（下村 岳人）
※アドレスの(atmark)の部分は＠です.
［発表申込・原稿提出］発表は，単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。
発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします。
希望される方は，氏名，所属，発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所を明記した E-mail を 企画編集委員：下村 岳人（島根大学）までお送りください。
発表申込締切は，　2024 年 5 月 13 日（月）です。
研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください.
〈 URL： https://jsse.jp/1-3/115-2 〉

研究会研究報告の原稿例も学会ホームページをご参照ください.

〈 URL： https://jsse.jp/1-3/125-2 〉

原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は，2024 年 6 月 2 日（日）です。

次のウェブサイトから投稿してください。

〈https://jsse-kenkyukai-form.jp/ 〉

研究会情報のプルダウンメニューで「四国支部」を選んでください。

投稿完了メールは＜info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp＞より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように，あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。アドレスの(atmark)の部分は＠です。

原稿提出が指定の期日に遅れますと，投稿できなくなり，自動的に取り消しとなります。また，原稿投稿料が指定の期日に遅れますと，発表できませんので，ご注意ください。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会　中国支部長　佐々木弘記（中国学園大学）

国際学会参加報告(71)

The 13th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education (CERME13)

2023 年 7 月 10 日～14 日にハンガリーの首都ブダペストで開催された欧州数学教育学会第 13 回国際会議（CERME13）に参加しました．この国際会議は，欧州数学教育学会（ERME）が主催し，ヨーロッパ地域で隔年で開催される数学教育学全般に関わる国際会議です．これまで 2 月に開催されることが多かったのですが，コロナ禍で前回 CERME12 がオンラインで小規模に開催された影響もあり，今回は 7 月に開催されました（毎日大変暑かったです）．対面で全面的に開催されるのは 2019 年のユトレヒト大会以来となります．



図 1 ：ドナウ川周辺の風景（大会 HP より）

CERME では Topic Working Group （TWG）と呼ばれるテーマ別の分科会ごとに一連のプロセス（投稿，査読，発表，議論，評価，等）が組織されます．今大会では 27 の TWG が実施されました．TWG の運営は，その研究領域の第一線の研究者と若手研究者（博士課程院生やポスドク等）が共同で行います．大会期間中は 90～120 分の TWG のセッションが 7 回もあり，参加者は同じ TWG の議論に継続して参加することが求められます（実際，5 日間のプログラムのほとんどが TWG 関係で埋まっていて，全体会が少ないことも特徴的です）．人数の多い TWG では複数のサブグループに分かれて議論が行われました．このような TWG の編成からも，参加者一人ひとりが自分の研究だけでなく，その研究領域の発展に貢献することが重視されているということがわかります．

個人的には CERME は今大会で 3 回目の参加でした．TWG は前回に引き続き TWG1 （Argumentation and Proof）に参加して 2 つの発表に関わりました．一つは小学生による例や反例を用いた説明に関する調査研究で大学院生との共同発表でした．もう一つは日本の数学授業における証明の文化的側面を分析した共同研究でした．発表に対する参加者のリアクションから，海外の研究者がどのようなポイントに関心をもっているかを知ることができるのも，国際会議で発表することの一つの意義ではないかと思います（自分が面白いと思っているポイントとのズレに気付かされることもしばしばあります）．実際，同じ TWG に出席していると他の参加者と顔見知りになるので，Coffee break のときなどに色々と話しかけられます．ちなみに，conference paper （8 頁）は大会後に軽微な修正をへて Proceedings として刊行されます（2024 年 1 月時点で Proceedings は ERME の HP から無料でダウンロード可能となっていますが，全体で 5000 ページを超えていて驚きました）．

CERME はヨーロッパの地域大会ですので日本からの参加者はそれほど多くありません(正確な人数はわかりませんが，今大会は 10 名程度であったように思います)．しかし，参加した日本の先生方とお話する限り，どなたも充実した時間を過ごされていたご様子で満足度は高いように見受けられました．もしお知り合いの方で CERME に参加した経験のある方がおられれば是非感想をお聞きになってみて下さい．おそらく次回の CERME の参加を勧められると思います．



図２：懇親会会場となった西洋美術館
（筆者撮影）

近年，CERME の参加者は増加傾向にあり，CERME13 では過去最多の 830 件の投稿がありました．会場の収容人数の都合上，共同発表であっても原則として各発表につき 1 名のみ参加が認められることになりました．学会の役員や分科会の運営に関わる参加者等を含めると，全体で 1000 名近い参加者になったのではないかと思います．CERME では投稿された原稿は査読（open peer review）と修正を経て発表の可否が決定されます．これは私個人の感覚ではありますが，CERME の査読は比較的インクルーシブに行われ，採択率も比較的高いように感じていました．しかし，近年の参加者数の増加に対処するため，学会では発表件数に制限を加える方法についても検討しているようです．具体的には，今後の大会では査読をより厳格に行うことで採択数を若干制限することが議論されています．量から質へと転換するというわけです．その一方で，投稿前に経験豊富な研究者からアドバイスを受けることのできるサポート体制を強化することも検討されています．

次回 CERME14 は 2025 年 2 月 4 日～8 日にイタリアのボルツァーノで開催される予定です（投稿期限は 2024 年 9 月 15 日）．ボルツァーノはもともと CERME12 のホストでしたが，コロナ禍で現地開催ができなかったという経緯があります．冬のボルツァーノは寒そうですが，今大会同様に参加者の熱い議論で盛り上がることが予想されます．ご関心のある皆様は是非とも参加を検討されてみてはいかがでしょうか．

ERME のウェブサイト：http://erme.site
CERME14 のウェブサイト：https://www.cerme14.it

（真野祐輔・広島大学）

国際学会開催情報

2024 年

ICMI Study 26: Advances in Geometry Education

開催地：Reims, France

期間：2024 年 4 月 23 日-4 月 26 日

https://icmistudy26.sciencesconf.org/

International Science Education Conference 2024

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 24 日-6 月 26 日

https://isec2024singapore.org/

International STEM EDUCATION Conference 2024 Singapore

開催地：National Institute of Education, Singapore

期間：2024 年 6 月 26 日-6 月 28 日

https://istem-ed2024singapore.org/

The 15th International Congress on Mathematics Education (ICME-15)

開催地：Sydney, Australia

期間：2024 年 7 月 7 日-7 月 14 日

https://icme15.org/

The 18th Asia-Pacific Conference on Giftedness (APCG)

開催地：香川県，日本

期間：2024 年 8 月 17 日-8 月 20 日

発表エントリー締切り：2024年4月1日

https://apcg-japan2024.org/

The 4th World Conference on Physics Education 2024 (WCPE)

開催地：Krakow, Poland

期間：2024年8月26日-8月30日

Abstract Submission：2024年2月29日

https://indico.cern.ch/event/1162407/

The Asian Association for Biology Education 2024 (AABE 2024)

会議テーマ：グローバル・ウェルビーイングへの展望：教科等横断型学習における生物教育

開催地：愛媛大学 城北キャンパス, 愛媛県, 日本

期間：2024 年 10 月 12 日-10 月 15 日（10 月 16 日に有料エクスカーションを実施）

発表エントリー締切り：2024年4月20日

登録エントリー締切り：2024年7月20日

https://www.aabe2024.com/

備考：大会中に中高生の生徒によるポスターセッションを開催予定

2023 年度 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）報告

2023 年 12 月 9 日（土）に，「次世代の科学教育研究」をテーマに若手活性化委員会担当の研究会が九州大学で対面およびオンデマンド会場（Slack）で開催されました．研究会の参加者は，155 名（対面：96 名，オンライン：59 名）と，たいへん盛り上がった研究会となりました．なお，この研究会は，『科学教育研究』の若手会員を対象とした特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」（通称：若手特集）とタイアップしています．

１．研究会

研究発表は対面ポスター（九州大学）とオンデマンド（Slack）で行いました．今年度の新たな取り組みとして，事前動画の提出によるオンライン会場（Slack）を設置しました．参加者からは，「自分が発表するグループと同じ発表もオンデマンドで見ることができた．」「動画を作るのは大変であったが，その分発表内容を知った上で質問をしてくださったり，内容に興味を持ってもらうことができた．」「事前に動画を確認できたため，初めから議論に入ることができて満足だった」「事前に参加者の意見を聞くことができ良かったです．」といった感想をいただきました．また，オンライン会場では，「ポスター発表動画などを作成してくれたおかげで部外者でも気軽に参加できました」といった感想もいただき，運営側としても大変嬉しく思います．

一方，事前動画の提出については，「原稿提出からの準備期間が短い．」「発表者側としては事前に提出しなければならない負荷が増えたのがデメリットでした．」など，発表者の負担に関するご意見をいただきました．お寄せいただいたご意見は，今後の研究会運営向上のために役立てさせていただきます．アンケートにご協力くださり，誠にありがとうございました．

優秀な研究発表に対しては「ベストプレゼンテーション賞」を授与しています．また，今年度に試行したオンデマンド発表という形態において，当日の研究会への参加や投票ができなかった方への投票機会の確保も含め，「ワンモアチャンス投票」を設けました．参加者の当日の投票及び，ワンモアチャンス投票の結果，ベストプレゼンテーション賞に選ばれた方は以下の 5 名でした．おめでとうございます．

【ベストプレゼンテーション賞受賞者】

田中達也：神戸常盤大学
現職教員の防災教育指導力の向上を目指した避難訓練ゲーミフィケーションプログラムの開発

三橋可奈：千葉大学大学院
数学教育における算額の図形問題の活用に関する一考察－作図の位置づけに着目して－

川崎弘作：岡山大学
小学校理科において知的謙虚さを育成するために重要な視点は何か

森田直之：東京都立科学技術高等学校
『課題研究』を中心とした「主体的な学び」の誘発と持続のための探究学習プログラム

加藤圭太：早稲田大学大学院
通信制高校数学科における単位修得率向上を目指した個別化教授システム（PSI）によるコース



委員長と受賞者（九州大学会場）

・託児所

今年度の研究会も昨年に引き続き，「託児所」を設けました．利用者の方からは「息子や娘が喜んでいました．託児所があるだけで本当にありがたいのですが，役員の先生や参加された皆様に遊んでいただいたり声をかけていただいたりしました．時には全力鬼ごっこまで…親子共々大変お世話になりました．ありがとうございました．」といった温かいお言葉をいただきました．





託児所の様子

・運営ボランティア

研究会は，ボランティアの皆様のご協力があったからこそ，円滑に開催することができました．運営一同，改めて皆様のご協力に心から感謝しております．

【ボランティアに参加してくださった方】
加藤圭太様，新井しのぶ様，下村早紀様，口羽駿平様，田中達也様，松山友香様，下平剛司様，
牧澤遼様，綿谷一恵様，藤堂健世様，山本翠様，本田真大様，お子さんたち





ボランティアの皆さん

２．その他

情報は，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで続々公開しております．どうぞご期待下さい．

Facebook ページやメーリングリストの登録は，随時，受け付けています．ぜひご登録ください．

◯若手活性化委員会 Facebook

https://www.facebook.com/jssewakate/

◯JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

https://goo.gl/tClQb4

（大阪教育大学：岡部舞）

若手研究者，「初心」を語る

学会参加のすゝめ

岡山大学教育学部 B4 橋本 日向

[学会参加前の私]

私は今回が初めての学会参加でした．そもそもなぜ私がこれまで一度も参加したことがない学会に参加しようと思ったかから話そうと思います．その理由は，今回が最後のチャンスなのではないかと思ったからです．私は現在大学4年生で4月から中学校の教員になります．このままでは1度も学会に参加することがないまま大学生活を終えてしまう…ということが分かり，学会に参加してみたいという気持ちが湧いてきました．しかし，私はまだ研究を始めて1年半くらいなので，自分の知識不足が原因で学会当日に出会う方たちと上手く話せなかったら申し訳ないな…という気持ちも正直ありまし

た．ですが，発表者の方々の事前動画（研究内容について語られている動画）をみていく中で，他の方々が時間をかけてされている研究に興味を持てるようになり，直接話をしてみたい人や内容が増えてきて，純粋に楽しみにしながら学会当日を迎えました．

[学会中の私]

学会がおきあがり先生(代表の研究者の方が研究生活の失敗を語る企画)で始まったことが印象に残っています．それぞれの研究者の立場での苦難を知り，共感できる話もあって，自分も研究を進めようと前向きになることができました．普段は論文でしか研究者の方たちの気持ちや考えを知ることができませんが，この企画ではそれぞれの研究者の方たちの人間味が伝わってきてとても面白かったです．ポスターセッションでは，改めて研究には様々な領域があるな…と思ったことが印象に残っています．それぞれの研究者の方のところに行って質問をさせて頂くことが多かったです．私の拙い質問にも熱心に回答し，説明してくださった研究者の方たちの意見を得て，研究領域や，研究者の立場など多くのことを考える機会になりました．懇親会ではポスターセッション以上に他の参加者の方たちと深い話ができました．初めて話す方も多く，それぞれの方の興味や将来の展望を聞くことで刺激をもらうことができました．

[学会参加後の私]

私は今回の学会に参加してとても良かったし，自分のためになったと感じました．そして，教員になってから数年たった後にふらっと参加したいなと思えるくらいに居心地の良い学会でした．今回の参加を経て私も自分の研究を学会で発表できたらいいな…と思いました！

最後に指導教員が学会で活躍している姿をみて，普段私の研究室で行っている研究の重要さを体感できました！ぜひ今後の川崎弘作先生の活躍にご期待ください！！笑



共同研究のメンバーと記念撮影（左から4番目が橋本さん）

初めての研究会発表

明治学院大学心理学部 B4 小林 杏

私は，2023年12月9日に開催された研究会で，学部生として初めての発表を経験した．この前年に行われていた研究会ではボランティアとして参加し，雰囲気は掴んでいたつもりだったが，場所や発表の形式が変わっており，違う会に参加したのかと錯覚した．しかし，会が始まるとワークショップがとても盛り上がっており，和やかな雰囲気となった．いざポスターセッションが始まると，全員が自分の興味に沿って色々な方の発表を聞き入っていて，とても積極的な会の雰囲気だと感じ，自分のポスター発表が楽しみになった．その一方で，自分の発表を聞きに来てくれる人がいなかったらどうしようという不安も襲ってきた．いざ発表となり，準備をしていると，時間の前から発表を聞きに来てくれる方々がいた．とても嬉しい気持ちになり，緊張が解れた．そして発表の時間，他にも興味深い内容がある中，私の発表を聞きに来てくれる方も多く，とても楽しく発表できた．発表は，コミュニケーションを中心として進められていたので，自分らしい発表をすることが出来た．発表では，様々な質問や意見をいただき，自分の研究を見つめ直し，何が足りなくてどのような改善ができるのかを把握できるとても良い機会となった．また，自分の状況に合わせたカードを提示でき，初参加の発表でも積極的に楽しんで参加出来た．普段大学内では関わることのできない「研究者」の方々と深く話すことで，どのような経緯で研究をするようになったのか，なにを目標としているのか等を聞くことが出来，とても参考になった上に，研究者の熱意や研究の楽しさをより感じることが出来た．「研究」とは堅苦しく，頭を抱えるイメージが一般にはあると考えるが，この会に参加することでそのイメージは覆り，研究の楽しさや良い意味での手軽さ，誰でも取り組むことが出来ることを感じ，若手研究者の育成や拡大に繋がると実感した．将来は教員の道を歩むが，研究したいことを自分なりに研究できる場があるということを胸に日々学び続けていきたいと考えた．



ポスター発表の様子（左上には「初参加」のカード）

語ることからの学び

島根大学大学院教育学研究科 M1 箕矢明音

私は，2023年12月９日（土）に開催された「2023年日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）」に参加させてもらいました．

この研究会では，前半にテーマ「おきあがり先生〜私が伝えられるヒント〜」という企画が行われ，様々な立場にいる先生からこれまでの困難とその乗り越え方を知ることができる有意義な時間でした．また，後半では，ポスター形式で研究発表が行われ，自身の研究を沢山の人に聞いてもらい，質問や意見から新たな視点がもらえる貴重な時間になりました．

私はこの学会で，前半に行われた企画の登壇者になるという経験をさせていただきました．具体的には，『大学院生って大変』というテーマをいただき，大学院入学までの道のりや入学後の生活を中心に，発表をさせていただきました．多くの研究者の方々がおられる中で，自身の過去を話すことは，とても緊張しました．ですが，この発表を終えて感じとったことがあります．

それは，発表をしたことによって顔や名前を覚えていただけたことです．発表後，同年代の院生，これから院生になる学部生，同じ登壇者の方々など様々な人から声をかけていただき，沢山の方々と繋がるきっかけとなりました．そして，共感やこれからも研究を頑張ってほしいという意味を込めた温かいお言葉やご示唆をいただき，それが研究を進めるうえでの刺激をいただきました．こうしたことから，様々な方と繋がることの大切さを痛感いたしました．

また，このような大きな場所での発表の機会をいただけたことは，私にとっての自信に繋がり，研究を進めるための大きな原動力にもなりました．この度は貴重な機会をくださった科学教育学会若手活性化委員の皆様に心より感謝申し上げます．これからも，転びながらも，また立ち上がり，研究に精進していきたいと思います．



企画発表の様子

「明けた学会と学び続ける人々への憧れ」

島根大学大学院教育学研究科 M2 中野ひかる

参加学会： 2023年度日本科学教育学会第2回研究会

私が初めて行なった学会での発表は，今回参加した研究会と同じ，ポスター発表でした．ただ一点，今回の研究会と異なっていたのは，オンライン開催だったということです．新型コロナウイルス感染症の影響が長く続いたこともあり，画面上の学会発表に慣れかけていました．そのような中で，対面でのポスター発表を経験できた今回は，とても刺激を受けました．研究会を通じ，感じとった事柄を以下に挙げます．

第一に，対話を通して他者意識が働くことは，そこでの議論の発展に繋がるということです．他者の表情や仕草から，自身の言葉が伝わっているかどうかを判断しやすい状況にあったことは，他者へ伝わるよう努力することに直結したように思います．また，これを聞き手と話し手の両方が行うことから，互いに奮闘するような議論が生まれたことは，純粋に楽しく思いました．時間や場所の柔軟性がある全面オンライン開催の価値も感じつつ，改めて対面の価値も感じることができました．

第二に，学び続ける人々の姿を，研究会全体を通して目にし，将来像を思い描くことができました．先生方の，子どもたちの学びをより良くしようとする熱意や，それを一つの研究として形にし，発信する行動力には，尊敬の念を抱きました．自身の経験だけでなく，学び，新たな視点を獲得し続けることが，子どもの学びを考えることに繋がるのだと感じました．

ここでの学びは，同じ活動を異なる状況で体験し直したことで得られたものであり，初の体験の貴重さを再度確認する機会となりました．また，来年，再来年といった次の一歩への活力に繋がるものとなりました．



ポスター発表の様子

編集委員会だより

特集のお知らせ（再掲）

編集委員会では，若手活性化委員会と連携し，下記の主旨で「科学教育研究」第 48 巻第 4 号での特集を企画します．研究論文，総説・展望，資料，プラザ，全ての種別の原稿を募集いたします．ふるってご投稿のほどお願い申し上げます．

なお，投稿規程により，「科学教育研究」への投稿論文は，筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります．また，この特集には投稿条件が設定されています．その点ご注意ください．

編集委員長　青山和裕
特集編集部会長　小松孝太郎
若手活性化委員会委員長　山本輝太郎

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として，また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として，若手会員を対象とした特集（以下，若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが 2017 年に始まった．2023 年で 7 回目となる．これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し，『科学教育研究』第 42〜46 巻各第 4 号に，多くの若手会員の研究成果を掲載してきた. 2023 年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と，研究成果の公表機会の提供を行う．

前々回の 2021 年の若手特集では，これまでの若手特集の実施体制をより持続可能な仕方で「進化」させるために，新しい組織編成を行った．今回の 2023 年の若手特集では，これを継承しつつ，次のように組織を編成する．(1) 若手活性化委員会の下部組織として，サブミッション・アドバイザリーボードを設置する．(2) 特集編集部会は，過去の若手活性化委員会構成員および後述の若手特集の投稿条件（1）を満たす会員を中心に組織する．

1 点目について，若手活性化委員会のサブミッション・アドバイザリーボードは，若手特集への投稿希望者や投稿するかどうかを思案している若手会員への助言を組織的に実施するものである．若手活性化委員会の構成員がサブミッション・アドバイザリーボードの構成員となることで，若手特集に関わる 3 点の取り組み，1 : 若手会員の研究会発表時に論文投稿に向けた建設的なコメントを行うこと，2 : 論文投稿に向けた若手会員からの相談を受けること，3 : 本特集への論文投稿を促進すること，をより一層充実させることをねらっている．若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザリー

ボードを設置するという前々回からの新しい試みによって，若手会員の研究活動をこれまで以上に支援することを意図している．2 点目は，サブミッション・アドバイザリーボードにおける助言者と若手特集における査読者の重複を避けつつ，若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展のための特集とすることに加えて，若手活性化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげる方策である．

なお，若手特集への投稿条件は，今回の 2023 年の若手特集においても，これまでの若手特集における投稿条件を継承する．若手会員への支援を積極的に提供するために，若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2023 年 12 月 9 日（土），九州大学，対面開催（一部オンライン））での研究発表が若手特集の投稿条件となっている．また，研究会での研究発表だけでなく，筆頭著者が「若手」であることも投稿条件である．日本学術振興会は令和 3 年度科学研究費助成事業への公募から若手研究への応募資格を博士学位取得後 8 年未満の研究者のみに変更したが，若手特集はこれに準じない．学位をもたない 40 歳以上の会員であっても，学籍を有していれば若手特集への投稿資格を有する．本若手特集は，より重要性の増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり，そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指す．

特集編集部会の構成メンバー

部会長：小松孝太郎（筑波大学）

副部会長：川崎弘作（岡山大学）

特集編集部会委員：（調整中）

若手活性化委員会　サブミッション・アドバイザリーボードの構成メンバー

山本輝太郎（金沢星稜大学）［委員長］，標葉靖子（実践女子大学）［副委員長］，長沼祥太郎（九州大学），岡部舞（大阪教育大学）［以上，幹事］，荒谷航平（北海道教育大学），古賀竣也（活水女子大学），下村岳人（島根大学），山崎美穂（帝京大学），岡本紗知（大阪大学），大谷洋貴（大妻女子大学），中村謙斗（東京理科大学大学院／東京学芸大こども未来研究所），森田大輔（第一工科大学）［以上，委員］，舟生日出男（創価大学）［顧問／相談役］，雲財寛（東海大学），舟橋友香（奈良教育大学）［理事］ほか

投稿条件

以下の（1）～（3）の 3 点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます．これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては，一般論文としての査読対象とさせていただきます．あらかじめご承知おきください．

（1）以下の（a），（b），（c）のいずれかを満たす学会員が，投稿論文の筆頭著者となっていること．

（a）投稿締切日時点で，39 歳以下である．

（b）投稿締切日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している．

（c）投稿締切日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である．

（※）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む．

（2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2023 年 12 月 9 日（土），九州大学，対面開催（一部オンライン））で，筆頭著者として研究発表を行っていること．

（3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること．

事前申込締切：2024 年 2 月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため，事前申込を必須とします．投稿を予定している方は大変お手数ですが，メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込」とし，以下の事前申込内容を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください．

---（事前申込内容ここから）

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込
・著者名・所属：
・仮タイトル：
・論文種別：
・E-mail アドレス：
・電話番号：
・連絡先住所：
・投稿条件（1）について：
※満たしている項目の［ ］内に●を記入してください．
［ ］(a) 投稿締切日時点で，39 歳以下である．
［ ］(b) 投稿締切日時点で，修士課程，博士課程，専門職学位課程のいずれかに在学している．
［ ］(c) 投稿締切日時点で，博士の学位取得後 8 年未満（※）である．（※）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇，育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む．

---（事前申込内容ここまで）

投稿受付開始：2024 年 1 月 1 日
投稿締切： 2024 年 3 月 31 日

＊特集に投稿する場合は，投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください．
＊投稿論文には，日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします．（執筆要領 4.(2)参照）
＊査読は，投稿締め切り後に開始します．

発刊予定：2024 年 12 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については，一般論文としての査読を継続いたします.

以上

「科学教育研究」編集状況報告

1. 新規投稿論文（2023.11.1～2024.1.31）：31 編

【内訳】

和文 31 編

英文 0 編

2. 査読中論文（2024.1.31 現在）：49 編

【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）：1 編

担当編集委員選出中：0 編

査読者選出中：1 編

査読者諾否待：2 編

査読中（1 回目）：9 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中：2 編

改訂稿待ち：23 編

査読中（2 回目）：9 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中：1 編

編集委員長による最終判定中：1 編

3. 掲載決定論文（2023.11.1～2024.1.31 現在）：1 編

【内訳】

研究論文：1 編

総説・展望：0 編

資料：0 編

プラザ：0 編

【合計】

48-1 号：1 編（通算 2 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移（2020.12.1～2024.1.31 現在）

（2024年1月31日　現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数（見なし取り下げを含む）	
	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	掲載不可	取り下げ
2020年　12月	6	0	28	0	2（45-1） 0（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		10	0
2021年　1月	8	0	27	0	1（45-1） 3（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		5	0
2021年　2月	4	0	26	0	0（45-1） 3（45-2）	0（45-1） 0（45-2）	0 0		2	0
2021年　3月	11	0	23	0	7（45-2） 0（45-3）	0（45-2） 0（45-3）	0 0		7	0
2021年　4月	14	0	28	0	1（45-2） 2（45-3）	0（45-2） 0（45-3）	0 0		6	0
2021年　5月	6	0	25	0	0（45-2） 3（45-3）	0（45-2） 0（45-3）	2 0		6	0
2021年　6月	4	0	23	0	2（45-3） 0（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		4	0
2021年　7月	8	0	27	0	2（45-3） 1（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		1	0
2021年　8月	3	0	25	0	0（45-3） 0（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		4	1
2021年　9月	3	0	22	0	0（45-3） 3（45-4）	0（45-3） 0（45-4）	0 0		3	0
2021年　10月	6	0	18	0	1（45-4） 2（46-1）	0（45-4） 0（46-1）	0 0		6	1
2021年　11月	13	0	29	0	0（45-4） 0（46-1）	0（45-4） 0（46-1）	0 0		2	0
2021年　12月	6	0	30	0	2（46-1） 0（46-2）	0（46-1） 0（46-2）	0 0		3	0
2022年　1月	6	0	24	0	1（46-1） 2（46-2）	0（46-1） 0（46-2）	0 0		9	0
2022年　2月	5	0	24	0	2（46-2） 0（46-3）	0（46-2） 0（46-3）	0 0		3	0
2022年　3月	17	0	29	0	5（46-2） 1（46-3）	0（46-2） 0（46-3）	0 0		5	1
2022年　4月	15	0	38	0	0（46-2） 0（46-3）	0（46-2） 0（46-3）	0 0		5	1
2022年　5月	7	0	40	0	0（46-2） 1（46-3）	0（46-2） 0（46-3）	0 0		4	0
2022年　6月	8	0	44	0	1（46-3） 0（46-4）	0（46-3） 0（46-4）	0 0		3	0
2022年　7月	4	0	31	0	1（46-3） 7（46-4）	0（46-3） 0（46-4）	0 0		9	0
2022年　8月	11	0	28	0	0（46-3） 4（46-4）	0（46-3） 0（46-4）	0 0		8	1
2022年　9月	4	0	21	0	0（46-3） 9（46-4）	0（46-3） 0（46-4）	0 0		2	0
2022年　10月	11	0	25	0	0（46-4） 0（47-1）	0（46-4） 0（47-1）	0 0		6	1
2022年　11月	12	0	31	0	0（46-4） 1（47-1）	0（46-4） 0（47-1）	0 0		4	1
2022年　12月	6	0	34	0	1（47-1） 0（47-2）	0（47-1） 0（47-2）	0 0		2	0
2023年　1月	7	0	30	0	2（47-1） 0（47-2）	0（47-1） 0（47-2）	0 0		9	0
2023年　2月	8	0	31	0	0（47-1） 4（47-2）	0（47-1） 0（47-2）	0 0		3	0
2023年　3月	17	0	35	0	5（47-2） 0（47-3）	0（47-2） 0（47-3）	1（47-2） 0		8	0
2023年　4月	19	0	48	0	1（47-2） 0（47-3）	0（47-2） 0（47-3）	2（47-2） 0		4	1
2023年　5月	11	0	43	0	0（47-2） 3（47-3）	0（47-2） 0（47-3）	0 0		11	2
2023年　6月	6	0	41	0	3（47-3） 1（47-4）	0（47-3） 0（47-4）	3 0		4	0
2023年　7月	5	1	39	1	1（47-3） 2（47-4）	0（47-3） 0（47-4）	0 0		3	1
2023年　8月	7	0	34	0	0（47-3） 5（47-4）	0（47-3） 0（47-4）	0 0		7	0
2023年　9月	4	1	27	1	6（47-4） 0（48-1）	0（47-4） 0（48-1）	0 0		5	0
2023年　10月	18	0	34	1	5（47-4） 1（48-1）	0（47-4） 0（48-1）	0 0		5	0
2023年　11月	20	0	51	1	0（47-4） 0（48-1）	0（47-4） 0（48-1）	0 0		0	2
2023年　12月	4	0	51	1	1（48-1） 0（48-2）	0（48-1） 0（48-2）	0 0		3	0
2024年　1月	7	0	48	1	0（48-1） 0（48-2）	0（48-1） 0（48-2）	0 0		8	2

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 266 号をお届けします．一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら，学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ，お知らせください．

担当理事： 森田裕介（早稲田大） 大貫麻美（白百合女子大）

委　　員： 山口悦司（神戸大） 三宅志穂（神戸女学院大） 雲財　寛（東海大）
稲田結美（日本体育大） 黒田友貴（静岡大） 江草遼平（千葉商科大）
増田有紀（東京成徳大） 岡部　舞（大阪教育大）

幹　　事： 谷塚光典（信州大） 榎本哲士（信州大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集　日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会　Japan Society for Science Education

ＵＲＬ： *http://www.jsse.jp*
□ 事務局　中西印刷（株） 学会部　内　ＴＥＬ：075-415-3661　ＦＡＸ：075-415-3662
E-mail：*jsse [at mark] nacos.com*
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集）　ＴＥＬ：075-415-3155　ＦＡＸ：075-417-2050
E-mail：*jsse-hen [at mark] nacos.com*
中西印刷（株） 学会部　内　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会
銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会